



FRB はペースを緩めつつも長期に亘って利上げを継続する見込み

本稿は、PGIM フィクスト・インカムの子会社・グローバル・エコノミストである Daleep Singh、および子会社・インベストメント・ストラテジストである Robert Tipp が 11 月 2 日に執筆したブログ “The Fed’s Tightening Campaign: Slower, Higher, Longer” の内容を PGIM ジャパン株式会社が要約したものであり、情報提供のみを目的として作成されたものです。

<要旨>

- 市場の予想通り、米連邦準備制度理事会（FRB）は 11 月 1-2 日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）で 75bps の利上げを決定した。
- FOMC 声明文には、「これまでの度重なる金融引き締め、金融政策が経済活動とインフレ率に影響を及ぼすまでの時間差、そして経済・金融環境の動向を考慮する」との文言が盛り込まれ、今後のインフレ指標次第ではあるが、早ければ 12 月に利上げペースを 50bps に減速させたいとの意向が示された。これは、金融政策がより制約的となり、経済成長の下振れリスクがより顕在化する中で、今後の政策余地を残したいとの考えが反映されたものと見られる。
- しかし、パウエル議長は記者会見において利上げペースではなく、政策金利の最終到達点とその水準が維持される期間に焦点を当てた。利上げの一時停止の検討は極めて時期尚早であることを重ねて強調したほか、現時点ではインフレが緩和し始めている兆候は見られず、インフレ率を目標値に回帰させるという任務は道半ばであると述べ、よりタカ派的な姿勢を示した。
- こうした声明文とパウエル議長の記者会見を踏まえると、FRB はペースを緩めながらもより長期に亘って利上げを行い、政策金利の最終到達点はこれまでの予想よりも高い水準になると見込まれる。
- リスク資産市場は FOMC 声明文を一時好感したものの、その後の記者会見の中で、足元の予想を上回るインフレ指標を踏まえた政策金利の最終到達点の上振れが示唆されたため、楽観的な見方が後退した。今後、インフレがピークを打つまで引き続き信用スプレッドと株式市場は不安定に推移する可能性がある。間もなくインフレが鈍化し始める兆候を示すデータはあるものの、これまでも時期尚早な判断がされてきたことを踏まえると、慎重な見方が必要である。
- 一方、金利市場においては、今後 2 四半期に亘る 100bps 程度の追加利上げが既に織り込まれている。FRB は更なる大幅利上げを示唆したものの、少なくとも実際の FF 金利が市場の織り込みに追いつくまでは、債券市場は相対的に安定して推移する可能性がある。PGIM フィクスト・インカムは見ている。

データの出所(特に断りのない限り) : PGIM フィクスト・インカム、2022 年 11 月 2 日現在。

当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

留意事項

本資料に記載の内容は、PGIM フィクスト・インカムが作成した“The Fed’s Tightening Campaign: Slower, Higher, Longer”をPGIMジャパン株式会社が要約したものです。PGIMフィクスト・インカムは、米国SEC の登録投資顧問会社であるPGIM インクのパブリック債券運用部門です。

本資料は、プロの投資家を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

本資料は、当グループの資産運用ビジネスに関する情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の勧誘又は販売を目的としたものではありません。また、本案内に記載された内容等については今後変更されることもあります。

本資料に記載されている市場動向等は現時点での見解であり、事前の通知なしに変更されることがあります。また、その結果の確実性を表明するものではなく、将来の市場環境の変動等を保証するものでもありません。

本資料で言及されている個別銘柄は例示のみを目的とするものであり、特定の個別銘柄への投資を推奨するものではありません。

本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したものです。その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。過去の運用実績は必ずしも将来の運用成果等を保証するものではありません。

本資料は法務、会計、税務上のアドバイスあるいは投資推奨等を行うために作成されたものではありません。

当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは堅くお断り致します。

“Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。PGIMジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国プルデンシャル社とはなんら関係がありません。

PGIMジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第392号
加入協会 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会
PGIMJ94400